

3 子どもの日常生活で気になることや悩み

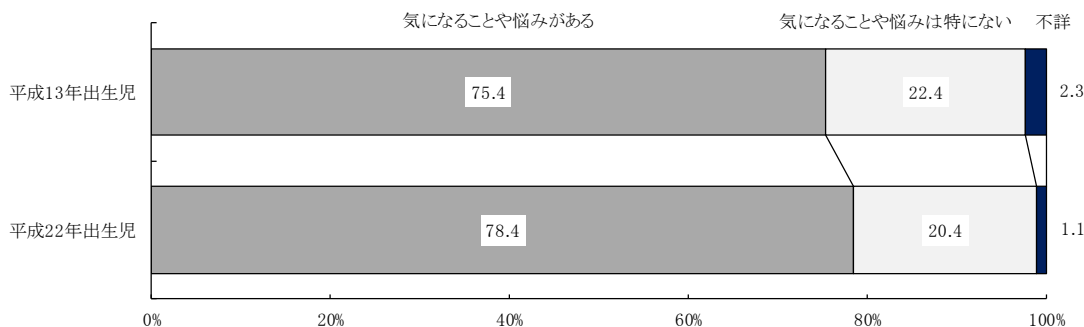
子どもの日常生活で気になることや悩みがある割合は78.4%と、平成13年出生児の75.4%に比べて3.0ポイント高く、学年が上がるにつれて増加

平成22年出生児について、子どもの日常生活で気になることや悩みがある割合は78.4%と、平成13年出生児の75.4%に比べて3.0ポイント高くなっている（図7）。

第7回調査（小学1年生）から第10回調査（小学4年生）までの子どもの日常生活で気になることや悩みがある割合の変化をみると、学年が上がるにつれて気になることや悩みがある割合が増加している（図8）。

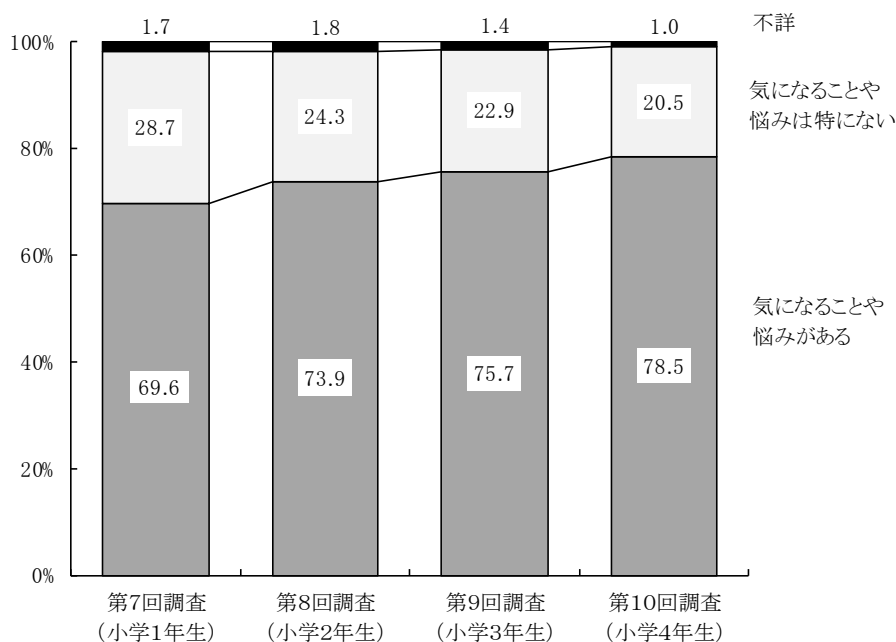
また、子どもの日常生活で気になることや悩みの内容（複数回答）をみると「テレビを見たりゲームをする時間が長い」が58.0%と最も高く、次いで「身体を動かして遊ぶことが少ない」が35.1%となっており、平成13年出生児と比較すると、「テレビを見たりゲームをする時間が長い」が23.6ポイント、「身体を動かして遊ぶことが少ない」が12.0ポイント高くなっている（図9）。

図7 子どもの日常生活で気になることや悩みの有無の世代間比較



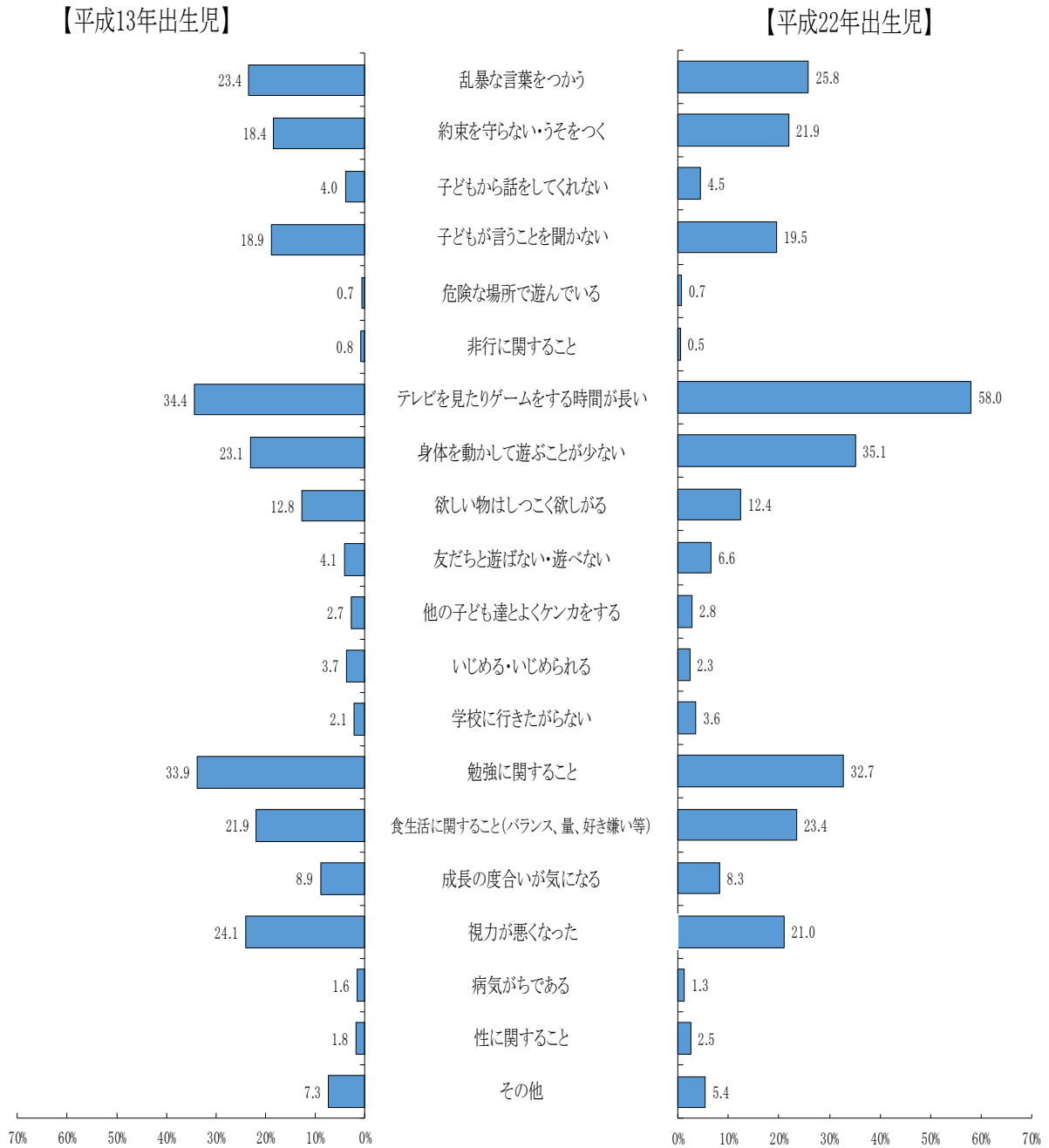
注：第10回調査の回答を得た者（平成13年出生児総数34,124、平成22年出生児総数24,041）を集計。

図8 子どもの日常生活で気になることや悩みの有無の変化



注：第7回調査から第10回調査まですべて回答を得た者（総数20,920）を集計。

図9 子どもの日常生活で気になることや悩み(複数回答)の世代間比較



注：第10回調査の回答を得た者のうち、気になることや悩みがある者（平成13年児総数25,720、平成22年児総数18,855）を集計。